

大聖堂 パイプオルガン コンサート

十一月十日(日)十四時から神戸聖ミカエル大聖堂で「パイプオルガンミニコンサート」と題されたコンサートが開催されました。この日は雲一つない晴天で、十一月にしては風もなく暖かい日でした。

演奏は神戸教区オルガニストの伊藤純子姉でした。

プログラムはバッハの「主イエス・キリストよ、我をかえりみ給え」、ボワヴァン『第六旋法による組曲』よりプラン・ジュ、トリオ、トランペットのバス、クロモルヌとコルネ、ディアローク、聖歌第三六七番、アラン「オルガンのためのふたつのコラールより『ドリア調コラール』」、聖歌第五二二番、メンデルスゾーン「ソナタ四番」より第二、三、四

楽章」と一時間弱の短い時間の中で、あらゆる時代の多種多様な音色の曲を楽しめる濃い内容のプログラムでした。私にとっては、あまり馴染みのない作品だったので、どの曲も美しく心に染み入りました。また、聖歌は演奏を聴くだけでなく、聖堂に集った全員で歌いました。クリスチャンではない方も多数いらしていたようで、初めは小さい声での歌いだしだったのですが、二番、三番…と曲が進んでいくごとに徐々に声が大きくなっていき、最後には聖堂内で歌声が響きわたっていました。

今回のコンサートは来場者一四五名という大盛況の催しとなりました。その約半分の七十二名の方がアンケートに答えてくださったので、その内容から少しご紹介したいと思います。それによると今回のコンサートが初めての方は五十六名もいらつしやう、聖公会関係者ではなさそうな方も多数お見受けしました。中にはクリスチャンではないとおっしゃる方が大聖堂の扉の所に立ち、その雰囲気感銘を受けていらつし



動をしなければならぬし、信徒の皆さまにもご協力を仰ぎたいと思った次第です。また、お客様のほとんどは神戸市内からいらつしやうでしたが、中には兵庫県内でも姫路のよう

るといふ声も少なからず聞かれましたので、このようなコンサートを神戸以外の地域で開催していくことも委員会として積極的に考えていきたいと思えます。しかし、たとえ遠くてもミカエル大聖堂の雰囲気味わい、パイプオルガンの音色を聞きに神戸まで来ていただければと存じます。

コンサートについての感想で一番多かったのは、「パイプオルガンの優しい音色に魅了された」というものでした。中でもメンデルスゾーンの曲に感動した方が多数いらしたようで、また是非とも伊藤純子姉の演奏でお聴きしたいと思いました。

最後になりましたが、パイプオルガン維持のための献金を誠に感謝します。

(福島 薫
パイプオルガン委員)